



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

CITATION:

通信. 天界 1934, 14(162): 446-480

ISSUE DATE:

1934-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166896>

RIGHT:

變化を現はす。しかし、平常から此等の變化の模様を好く研究し、親しんで置かないと、何故か、満月の前後三日間ほどの間、一時、此等の模様を見失ふおそれがあるから、特に注意しなければならない。

(4) ヘル山 (Hell) 之れは第三象限で、テイヒヨ山の北方に當り、ワルテル (Walter) 山の東隣にある直徑30キロばかりの火山である。之れもやはり月齡8の頃から日光が當り始め、23 頃から暗影中に没するが、其の間、變化を見せることが多い。しかし、別に連續性の變化ではない。

(5) アリスタルコス山 (Aristarchus) 之れも第二象限で、プロセラ洋中に輝き、ケプラの遙か北方にあつて、著しい放射線を多く放つてゐる。直徑40キロばかりの山であるが、キルキンス (Wilkins) 氏の報告によると、之れも絶えず何等かの變化をくりかへしてゐる山であるといふ。之れに日が當るのは月齡11日頃からである。

(6) グリマルヂ山 (Grimaldi) 之れは第三象限で、月球の東端に近く、長細く見えてゐる大火山で、直徑は250キロもある。之れに日光が當るのは月齡13日頃であるが、其の一日又は二日の後、時々此の山は綠色となり、其のまゝ、二三日續くことがある。此の観測には、ビリ (Billy)、クリウガ (Krüger)、リチオリ (Riccioli) 等の山々と比較するのが便利である。又、或は之れは淡綠色の紙の上にインキの點を一つ落したのと比べてよからう。

【 9 】

こうした特種な問題の興味に心惹かれつゝ、親しく月面の研究を始めると、今まで只ボンヤリ見えてゐた月世界が恰も生きてゐる如く感じられる。観測の結果を観測部に御報告下されば喜びである。

通 信

今度天界誌上に讀者欄が設けられましたのも嬉しい事です。さて編輯部の方に下記のお願ひがあるのですが、1. 天界誌上天象欄に、毎月極大近い長週期變星、蝕變星の極小豫報、主要流星群を記載していただく度い事、他の書籍、天文年鑑等にも述べてある事です、月々の雑誌にものせていただく方が便宜が多いです。2. 御多忙でお手一杯とは存じますが、天界を前月末日までに到着する様御發送願ひ度い事、遅着するやうでは、天象欄の月始めの記事は意味をなしません。3. 校正を厳にし誤字を出来る限り除かれ度い事。4. 近頃の會員名簿 (住所、氏名出来れば使用器械、観測の方面ものせた) をお作り下さいませんか。以上、尙天界九月號の山本博士の第二放送豫告は有難く思ひました。よいお話でもうつかり聞述す事が多いですから。

9月4日

高 井 生

ないで、只、重さを成るべく減するために、底部に大小多くの凹坑を作る目的で、鑄型の下部には多くの凸起を置いたことなどが新しい設計として考へられてゐる。それでも、此の鏡材の最後の重さは無量20トンとなり、こうして鑄込んだガラス材は今後約10ヶ月を費して冷却する豫定であるといふ。

豫定によれば、此の超大鏡の鏡面は永久にメツキ直すことのないため、真空中でアルミニウム鍍金を施すといふ。鏡面の直径は 500cm, 焦點距離は 16.5米 (55呎)、即ち f は 3.3 といふ強力なもので、之れにより約15億の恒星を撮影し得る。

器械部完成の上は、望遠鏡全體中の運轉部の總重量 500 トン、完成は多分 1940年頃といふ豫定であるらしい。總工作費は6,000,000ドル!!

此の器械は、(1)天體の直接撮影、(2)カスグラン式による長焦點の撮影、(3)天體の分析研究 (スペクトル撮影による)、(4)天體の熱量測定 (熱電堆による) 等、各方面の研究に用ゐられ、主としてキルソン山天文臺と加州工學院とのメンバーたちが使用する筈であるが、しかし現在のキルソン山にある 2.5米の大反射鏡の例にもある如く、結局は全世界の天文家のために之れは使用が許されることになるだろう。

お 尋 ね

私の家の北北東の方七八町の所に元小さいお宮のあつた所があります。お宮は七八年前に流行した神社合併で近くのお宮に合併されて今は敷地のみです。後は山です。このお宮には妙見様がまつてありました。御存知かも知れませんが老人達の言によりますと妙見様は星を祭つた神様とかで星に縁のある神様だそうです。傳説は之に關係があるのです。この境内に元は少し丈土の上に頭を出して居ましたが、今は全然掘り上げて轉してある大きな石があります。高さは五六尺、周圍は二十尺位ありますが重さは非常なものです。之が隕石だと言ふのです。即ち大昔大きな流星が此所に落ちたので妙見様、(星に縁のある神様)を此所に勧進したのだとの事です。その流星がこの石だそうです。併し私の見ました所では普通の石の様です。多分後の山から轉げ落ちたものではないかと思つてゐます。取るに足らぬ話ですが御知らせ致します。是は別問題ですが後學の爲です。老人達の言ふ妙見様は星に關係のある神様が何うかを御手数乍ら御調べの上御知らせ下さいませんか御領ひ致します。

山 口 市 湯 田 前 町 村 田 英 藏

倉敷天文臺通信 (七月)

暑さがひどくなると夜の時間は實に天國で、倉敷名物の蚊には相當攻められるが、星見屋の商賣をありがたく思ふことである。浴衣がけで人が訪れて來ても相手にしないゾ。

7日は第一の公開日。藤原君が數名の小學生を引きつれ來られた。七夕の兩星を知つてゐることは平素の訓練の賜であらう。玉島の大島氏はおそくまで残られたが、土星が雲のなかを動いて十分見えなかつた。

大島氏は10センチ反射望遠鏡を新製されることになり、岡山の阪本先生がつくつて居られる。たゞ觀望だけでなく、十分觀測にも使へる機械であるから、今後倉敷と協力して發展が望ましい。

近頃珍しい寫眞を贈られたのは 静岡縣の清水氏の蝸星座と岐阜縣の廣瀬氏の花山天文臺遠望とである。一等星のアンタレスが赤色であるため、その兩側の三等星よりも淡く出てゐるのが面白い。山科驛からの花山の大ドームは恐らく最小の姿であらう。天文に關する寫眞は來訪する會員達を楽しませ或は教育するのに適してゐることとて、多くの諸君からの御寄贈をお願いしたい。お禮としては倉敷の寫眞或はお饅頭を送呈する。

26日宵は部分月食で彼是準備してゐた。空は全く絶望的で、いくらうらんでもどうにもならず、ひとりで讚美歌をうたつてゐると、三好君が大聲で「西からはれて來る!!」と叫びながら來られた。鬼ヶ島征伐にでも出かけるといつた元氣につられて早速反射鏡による撮影準備を整へ待機の姿勢をとつたが、雲は理想通りに動かず、既にかけてゐる月を目の前に見ながら嘆息をもらすうち、やや可の時をねらつて四枚撮影、半分は失敗であつた。食の終る頃から次第によくなり、23時40分の月は美事にカメラに収められた。

床の間といふものは嚴然としてゐなくてはならないものの由。靜物の寫眞や野菊を入れてゐる籠まではよろしいが、二重戸棚、本立、天體寫眞機、アルバム、星圖、ラヂオ、小望遠鏡、蒸溜水、小型電氣スタンド、雜誌、謄寫機、電氣コンロ、等々で「物置」の評があります。(七月29日、荒木)